

核心・本心

—この人に聞く



パステルラボ社長

伊藤 数子氏

伴い、今の社会の仕組みではやっていけない部分が出てくる。例えば、フリーターの増加も弊害の一つ。子供が少ない家庭の場合、親に大事に育てられて甘えてしまい、働く意欲が希薄になっている。今のフリーター世代が親にな

を出し合う。これにより、後々トラブルも起こりやすくなる。また、休職中の社員でもできる仕事がある。コミュニケーションを密にすることで、仕事復帰への意欲は高まる。会社が仕事復帰しやすい環境を整えて、休む人も仕事の戻り方を自分なりに考えるべきだ」

石川県が今年度、少子化対策に力を注いでいる。「プレミアム・パスポート」などの新規施策を掲げ、谷本正憲知事は少子化対策を観光と並ぶ目玉と公言する。なぜ少子化対策が必要なのか。県の審議委員などを数多く務めるパステルラボ

(金沢市)の伊藤数子社長(42)に女性経営者の視点で少子化・育児対策について語ってもらった。

「企業が少子化対策に熱心だ。」

「企業が協力してもらおうという点に着目したのは面白いのではないか。特に地方では大企業の影響力が大きいので、こう

「行政は常に一〇〇%の政策を成功させようという

「行政は常に一〇〇%の政策を成功させようという

「少子化そのものが問題というより、少子化に

「企業には女性が育児休暇を取る場合、『結局辞めるんだろう』と見え

「私の会社ではまず、会社と育児休暇を取る社員が事前にしっかり意見

「記者の目」少子化が進むとなぜ悪いのか。伊藤社長の指摘通り、行政は明確な説明をしているとはいえない。県の当事者も打ち出した策が少子化抑制に効果があるのか半信半疑、という心境だ

「記者の目」少子化が進むとなぜ悪いのか。伊藤社長の指摘通り、行政は明確な説明をしているとはいえない。県の当事者も打ち出した策が少子化抑制に効果があるのか半信半疑、という心境だではないだろうか。(金沢支局 岩崎貴行)

少子化対策

企業と協力、柔軟に

べきだ。せっかく頭をひねって考えた政策はある程度長い目で取り組まないと、中途半端になる」

「企業は女性に育児休暇を取る場合、『結局辞めるんだろう』と見え

「私の会社ではまず、会社と育児休暇を取る社員が事前にしっかり意見

「記者の目」少子化が進むとなぜ悪いのか。伊藤社長の指摘通り、行政は明確な説明をしているとはいえない。県の当事者も打ち出した策が少子化抑制に効果があるのか半信半疑、という心境だ

「記者の目」少子化が進むとなぜ悪いのか。伊藤社長の指摘通り、行政は明確な説明をしているとはいえない。県の当事者も打ち出した策が少子化抑制に効果があるのか半信半疑、という心境だではないだろうか。(金沢支局 岩崎貴行)

「記者の目」少子化が進むとなぜ悪いのか。伊藤社長の指摘通り、行政は明確な説明をしているとはいえない。県の当事者も打ち出した策が少子化抑制に効果があるのか半信半疑、という心境だではないだろうか。(金沢支局 岩崎貴行)